朝日新聞

TOKYO 2020 オリンピック

大橋躍進 輝く金

競泳女子で6人目 400メートル個人メドレー

東京五輪第3日の25日、競泳女子400メートル個人メドレー決勝で初出場の大橋悠依（25）が4分32秒08で金メダルを獲得した。日本の競泳陣で、今大会初のメダル。日本勢が女子個人メドレーでメダルを獲得するのは2000年シドニー五輪400メートル個人メドレーで銀メダルだった田島寧子以来2人目で、21年ぶり。

大橋は同種目で4分30秒82の日本記録を持ち、2019年の世界選手権では銅メダルを獲得。24日夜の予選では、4分35秒71で全体3位で決勝進出を決めていた。

日本の競泳女子で金メダルを獲得したのは16年リオデジャネイロ五輪200メートル平泳ぎの金藤理絵以来で、6人目。大橋は「自分を信じて泳ぎました。やってきたことは間違えていなかったと思えたし、すごい楽しいレースができた」と振り返った。

2021年（令和3年）
7月25日
日曜日
五輪号外